

1. 単 元 Sunshine Book 1 PROGRAM 5 由紀、シアトルに行く。

2. 目 標

- ・飛行機の中や空港での対話のロールプレイングにおいてペアで協力しながら積極的に取り組もうとする。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・発音に注意して英文の内容が伝わるように音読したり、命令文や疑問詞で始まる疑問文を状況に応じて正しく言ったりできる。 (表現の能力)
- ・話し手の指示や尋ねたい内容を正しく理解し、適切に応じることができる。 (理解の能力)
- ・命令文や位置を表す前置詞の形・意味・用法がわかる。 (言語や文化についての知識・理解)

3. 指導にあたって

(1) 教材観

本課の内容は、由紀の初めてのアメリカ旅行である。本格的に英語の勉強を始めて数ヶ月たった由紀が、夏休みを利用してアメリカのシアトルに住んでいるおばさんを訪問する。初めて飛行機に乗り、シアトル・タコマ国際空港に到着し、マリおばさんの出迎えを受ける内容になっている。

場面的には、機上での隣の客との英語による会話、空港到着後のメインターミナルの手荷物の受取所で、出迎えてくれたマリおばさんとの会話、自分の手荷物を探すときの会話、駐車場でマリおばさんの車を探すときの会話となっている。これらの場面を通して、多くの会話表現に加えてターゲットの文法事項「命令文、否定命令文、Which... ?と応答、Where... ?と応答」が効果的に提示されており、いずれも本文中に繰り返し使用される表現である。

(2) 生徒観

男子 16 名、女子 14 名、計 30 名のクラスである。落ち着いた学習態度で授業に取り組んでいるが、もっと意欲を表に出し、活気ある授業の雰囲気を作っていけないものかと考えている。ペア活動、Reading 発表の態度は前向きであるが、英語らしい発音やイントネーションで表現する態度や気持ちを込めて表現する態度が十分ではない。全体の前で発表するとき、どうしても声が小さくなったり、目線が下がったりする。

学習全般においてかなり困難を来している生徒も数名いるので、教師からの支援とともに生徒同士がお互いに聞きあい、教えあって取り組む場面を設定し、分からないところや自身がないところを遠慮なく言える雰囲気を作ろうとしている。

(3) 指導観

指導にあたっては、ターゲットの文法事項と関連した既習事項を授業の始めに繰り返し練習しながら、基本的事項の定着を図る。言語活動を充実し、英語を口にする場面を増やすようにする。授業中にできるだけ全員が発話・発表できる機会を作るとともに、言語活動を通して発話・発表に対してよく聞こうとする態度や温かく聞く雰囲気を大切にし、英語に対する理解を深めるだけでなく英語を使ってみようという意欲を持たせるようにする。そして、具体的な場面や状況にあった適切な表現を自ら考えさせるような活動を仕組み、考える力を育成する指導の工夫を行うようにする。

Section 1 では、相手にしてほしいことを言えるようにするため、命令文と否定命令文を学習する。すでに Classroom English として耳にしている命令文ではあるが、主語の欠如、動詞の原

形の使用をおさえる。また、命令文というと、「～しろ」といった、高圧的な口調を連想しやすいが、実際には、行為を強く促すものとして使われることが多いことや言い方次第で伝わり方が異なることを理解させたい。

Section 2 では、「どちらの～が…ですか。」とたずねられるようにするため、疑問詞 **which** を用いた疑問文を学習する。疑問詞 **which** は、ある限られた範囲から 1 つないしはそれ以上の物や人を特定するように頼む場合に使われることを理解させたい。また疑問詞 **which** は、形容詞的に使われる場合と代名詞として使われる場合があるが、生徒の混乱を避けるため、導入時は形容詞的用法のみにとどめることとする。

Section 3 では、どこにあるのかたずねられるようにするため、疑問詞 **where** を用いた疑問文を学習する。生徒の理解を容易にするために、肯定文との相互比較をすることで構造的な理解をさせたい。

#### 4. 単元計画及び評価規準（総時数 6 時間）

時間	指導内容	評価規準
第 1 時	・ 命令文の用法・活用	・ 命令文が正しく伝わるように適切に話している。 (表現) ・ 命令文の形・意味・用法を理解している。 (知識・理解)
第 2 時	・ 本文の理解と命令文の復習	・ 飛行機の中や空港での対話の内容を正しく理解している。 (理解)
第 3 時	・ 疑問詞 ( <b>which</b> ) の用法・活用	・ <b>Which</b> ～? を使って相手に正しく尋ねたり、答えたりしている。 (表現)
第 4 時	・ 疑問詞 ( <b>where</b> ) の用法・活用	・ <b>Where's</b> ～? を使って相手に正しく尋ねたり、答えたりしている。 (表現) ・ 位置を表す前置詞の意味・用法を理解している。 (知識・理解)
第 5 時	・ 本文の理解と疑問詞の復習	・ 空港での対話の内容を正しく理解している。 (理解)
第 6 時	・ 本文の内容のロールプレイング	・ ペアで協力しながらロールプレイングをしている。 (関心・意欲・態度)

#### 5. 本時の学習（第 1 時）

##### (1) 題 材

・ PROGRAM 5 Section 1 命令文の導入・活用

##### (2) 本時のねらい

- ・ 命令文を状況に応じて適切に使い、相手の行動を促すことができる。(表現)
- ・ 相手の指示を正しく理解し、適切に応じることができる。(理解)

##### (3) 研究主題に迫る工夫（基礎の定着、基本の理解の徹底）

本時の学習に関連する既習事項をくり返し練習し、次の活動につなげていく。まず口頭練習を行い、次に書くことで本時の文法事項を確認する。**slow learners** に対しては教師だけでなく、生徒同士での教え合いも大切にしていく。最終的には本時の学習事項を用いた自己表現活動 (**writing or speaking**) を行う。

(4) 学習過程

過程	配時	生徒の活動 ・予想される生徒の反応	教師の指導、支援(●)と評価(数)
復習	5分	1. 教室英語であいさつする。 2. PROGRAM 1-4 までの既習項目の英語表現を使った質問に英語で答える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極力日本語を使わない雰囲気を心がける。</li> <li>・形式面の正確さだけでなく、話す内容の適切さを重視することによって、話そうとする意欲を失わせないようにする。</li> </ul>
導入	10分	3. 命令文の用法を理解する。 ①教師の指示に従い行動する。 ・ほとんどは先生がこれまでに教室で使ってきた英語なのでよく分かる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語外の情報や知識を生かして内容を推測して指示に従って行動できたら、ほめる。</li> </ul>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           めあて ・相手に「～しなさい」という文の形がわかる。            ・相手にしてほしい動作を英語で伝えることができる。         </div>	
		②命令文、否定命令文の形と用法を理解する。 ・いつも使っている文と形は違うのかな。  ・「～しないでください」というときは、動詞の前に don't を付ければよいのかな。	命令文の形・意味・用法を理解している。 (知識・理解) ・キーとなる動詞のみフラッシュカードで示して、動詞に注意を向けさせる。 ・平叙文を板書した上で命令文を聞かせて、それらの違いに気付かせる。
練習	10分	4. 命令文を練習する。 ①既習動詞をくり返し練習する。 ・単語がたくさん出てくるので、発音に自信がない。 ②命令文、否定命令文を用いて、状況にあった表現方法ができるようにする。 ・どんな言い方をすればよいかな。 ・動詞は強めた方がよさそう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リピートさせたり、絵をキューとして言わせたりするなど、活動に変化をつける。</li> <li>命令文が正しく伝わるように適切に話している。(表現)</li> <li>・please を加えているがぶっきらぼうな言い方と please はないけれど控えめな言い方を聞かせて比較・対照させ、言語形式だけでなく言い方も大切だとわかるようにする。</li> <li>・全体練習からペア練習へと移行する。</li> </ul>
発展応用	15分	5. 命令文を活用して、自己表現をする。 ・ペアの友達と協力して、気持ちを込めてお互いに指示を出し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習や新出の語彙を活用させる。</li> <li>・よい点を生徒に指摘させ、教師自らも認めるようにする。</li> </ul>
まとめ	10分	6. ワークシートで文法事項を確認する。 ・しっかり練習したので言えるけど、綴りには自信がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く終了した生徒にはできていない生徒を手助けしてもよいことを助言する。</li> </ul>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           まとめ ・相手に「～しなさい」というときは、主語を付けずに動詞で始める。            ・相手にしてほしいことを分かってもらうには、相手の理解を確かめながら内容が重要な単語を強めて言う。            Speak English. Please speak English. Speak English, please.            Don't speak English.         </div>	
		7. 自己評価表を記入する。	